

〔編集後記〕

○昨年春、野川義秋さんが小説「官山」で第五七回農民文学賞を受賞したのに続き、今年は黄英治さんが第四一回部落解放文学賞を受賞した。受賞作「あばた」は本誌第9号掲載の同名作に加筆したものだ。ますますの活躍が期待される。

○表紙絵は今回も野村寿孝氏が引き受けてくれた。第8号から四号続けて同氏に依頼した。向かって左が金石範さん、右が故金泰生さんの像だ。背景は済州島だ。金石範さんは今より若く、怒りに満ちている。金泰生さんは何やら茫洋としている。(鳥賊の瞳の潤みて海に向き干さる)という感じだろうか。

○金石範さんは今年三月第一回済州四・三平和賞を受賞された。『火山島』の韓国語新訳も発行される。

○レイシスト＝人種差別主義者が口にする悪口に「反日左翼・朝鮮人」というのがある。民族名を悪口として使うなど、以ての外だが、反日左翼というのも巫山戯た無知な言い方だ。「反日」とは「反日本帝国主義」ということだ。日本人が嫌いだとか、日本の伝統文化に反対するとかいう意味で使う人間は殆どいない。では彼らが嫌う「左翼」とは何か？ 右翼とは保守だ。彼らは既得権益にしがみつく。手下どもは。身分によつて社会的地位と富を蓄積する階級にぶら下がり、トリクルダウンの金銭目当てにヘイトスピーチを繰り返す。反

対に左翼は働く労働者・農民・市民が親の蓄積に拘わらず平等に生きる社会を目指すものだ。そうした言葉を罵倒に使うとは醜い本性を見せているに過ぎない。

○ネット上に蔓延するデマは、今や路上や書店にもはみ出した。差別と憎悪は熟成に向かっている。

○レイシストと闘うための必読書を三冊紹介したい。岡和田晃・マーク・ウインチェスター編『アイヌ民族否定論に抗する』(河出書房新社)／李信恵『鶴橋安寧アンチ・ヘイト・クロニクル』(影書房)／水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』(岩波新書)。

○フクシマの事故が起きてなお、核発電に拘る勢力の愚かしさは一体どこから生まれるのか？ 金で未来は買えないという簡単な事実が分からないのか。文学の欠如なのだ。

○一点掲載に至らなかった作品がある。スーパーマーケットの閉店騒動に非正規労働者が巻き込まれていく小説だ。今回は書き切れなかったようだが、是非完成させて欲しい。金石範さんは、(フィクションだと言つて安易に考えるのは傲慢なんだな)〈客観化できる距離がなければ小説を書くことはできない〉と言っている。一呼吸ついでからゆつくり書いて貰えればと思う。

○前号発行から二年二ヶ月ぶりの発行になった。現在の埼玉文学学校の精一杯の勢いがこんなものなのだ。(林)